＜参考＞川尻地区に見られる伝統的様式建造物の各部意匠

●厨子二階（つしにかい）

江戸から明治期に建てられた伝統的様式の建物で、一階の「店の間」の真上の部屋の天井が低く、物置や使用人の居住スペースとして使われていました。開口部が虫籠窓（むしこまど）となっている場合が多いが、川尻地区には事例となる虫籠窓のある建造物はありません。

大阪府富田林市寺内町

●本二階

「総二階」ともいう。明治末期から大正期に建てられた様式で、２階の天井が高くなり、居住用として使用された。開口部が虫籠窓から格子付きのガラス窓に変化しています。

嬉野市塩田津

●仕舞屋（しもたや）

一階に「店の間」を持たず、店を「仕舞った」ことにちなんでこのように呼ばれています。表向きは住居専用ですが、貸家にするなどして収入を得ていたものもありました。開口部が小さく出格子になっているものが多くあります。

●大塀造（だいべいづくり）

仕舞屋の発展型で、裕福な商人などが住宅専用に建てた塀付きの家。道に面して塀を立たせ、門と建物の間に前庭がある場合が多く、母屋は道路に面していません。

●昭和初期の建造物

総二階の外観に、１階部分は出格子の代わりに腰壁が設けられ、ガラス窓に真鍮や鉄などの金属製の格子が取り付けられている場合が多い。腰壁にはタイルが貼られているものも多くあります。

＜1 階まわり＞

●格子・出格子

中世より、泥棒等の侵入を防ぐなど、自衛のために設けられるようになったと言われています。

その形状は業種により異なり、室内に光を取り込みたい業種などに多くみられるのは「糸屋格子」。ぶつけても壊れないように頑丈に作られた「酒屋格子」「炭屋格子」、店を仕舞ったことに由来する「仕舞屋格子」などがあります。

●格子戸

●木製ガラス戸

●土台まわり

＜２階まわり＞

●虫籠窓（むしこまど）

虫籠のような形をしていることから「むしこまど」と呼ばれ、防火対策として、格子を漆喰で塗り込められた窓のことをいいます。厨子二階に多くみられますが、川尻地区にはありません。

写真の呉服店は、虫籠窓風にパラペット部分を改装しています。

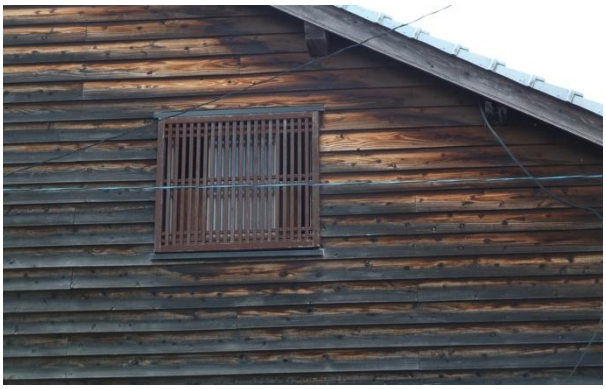
大阪府富田林市寺内町

●瓦の納まり

一文字瓦：瓦の端を切り落としたような形が連なり軒の端が波状に連なる

饅頭瓦：瓦同士の取り合いの部分に丸い瓦が取り付けられている

●開口部・小窓



●腕木・出桁・持ち送り

●欄間

●工作物：看板・暖簾

愛知県豊田市足助町

●工作物：門

大阪府富田林市寺内町

●工作物：塀

●工作物：車庫

芦北町佐敷

大阪府富田林市寺内町

●犬矢来

敷地と道路の境界の役割を持ち、泥はねや小用などから建物を守る役割を持っています。川尻地区での設置例はありません。竹で作られることが多いのですが、写真は、竹ではなく木棒で作られています。

大阪府富田林市寺内町

●駒寄せ（こまよせ）

犬矢来と同じく、道と敷地の境界の役割を持ち、泥はねなどから建物を守ります。

大阪府富田林市寺内町

大阪府富田林市寺内町

●町並みへの心遣い

町の案内標識や防災設備、エアコンの室外機、郵便ポストとちょっとした植栽に町並みへの心遣いがわかります。

大阪府富田林市寺内町

日向市美々津

大阪府富田林市寺内町

日向市美々津

●路地の楽しみ

路地への入口や橋の上からの風景は、景観のポイントとなります。